

新事務長の紹介

城北病院 事務長
西谷 求

このたび、西村前事務長の後任として事務長になりました西谷 求(にしやもとむ)と申します。

私は2000年に城北病院(当時の外来医事課)に入職後、法人内の城北歯科などを経験し、20年目の

今年も熱中症訪問を行いました

連日の猛暑の中、熱中症で救急搬送されてくる患者さんが増えてきています。そんな中 8/1 に、地域の高齢者



の方々を対象に熱中症訪問を行いました。当日は地域の方にもご協力いただき、総勢 41 名がペアになり、93 件訪問しました。

2019年に病院事務次長として再び着任しました。

ご存知のとおり、当院は「無差別・平等の医療」を掲げ、地域とともに歩んでまいりました。この3年はコロナ禍もあり、病院や医療をめぐる環境は厳しさを増しつつありますが、地域の健康を守ることとよりよいまちづくりのために、職員とともに微力ながら力を尽くしたいと思います。

これからも、地域におきまして重要な役割を果たされている皆様方との連携を一層強めながら、中核病院としての機能を果たしてまいり所存でありますので、特段のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。



訪問の際は「熱中症対策」のチラシもお配りし、気を付けていただくよう呼びかけました。

参加した研修医からは、「エアコンを使用していない家があって気になった」「何かあったら病院にと伝えたいが、心配」など、感想が寄せられました。

私たちがめざすもの

医療福祉宣言

城北病院 城北診療所

私たちは、ヘルスプロモーションホスピタルとして地域の皆様、他の病院や施設と共同してネットワークをつくり、無差別・平等の地域包括ケアを実践し、平和で安心して住み続けられるまちづくりに努めます。

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
http://johoku-hosp.com
E-mail renkeisitu@johoku.jp



医療福祉連携相談室だより

Jo-HOKU No.68

2023.8.30 summer

保険証廃止
いま踏みとどまって再考しよう城北病院 副院長
柳沢 深志

日頃から、城北病院、城北診療所の医療活動へのご理解、ご協力に、大変感謝申し上げます。

改正マイナンバー法などの関連法が2023年6月2日、参議院本会議にて成立しました。これにより、「マイナ保険証への一元化」や「年金受給口座とのひもづけ」などが進められます。同時に、2024年秋をもって、健康保険証が廃止されることになりました。

「国民皆保険が実現する前は、医療を受けられずに亡くなる人も大勢いました。1956年の『厚生白書』には「1,000万人近くの低所得者層が復興の背後に取り残されている」と記されています。この頃までは、国民のおよそ3分の1にあたる約3,000万人が公的医療保険に未加入であり、「国民皆保険」の達成は日本の社会保障の大きな課題となっていました。その後、1958年に新しい「国民健康保険法」が制定され、1961年に現在の「国民皆保険」が完成することになったのです。」

これは、医師会のホームページに記載されている、国民皆保険制度の評価です。保険証さえあれば、いつでも医療を受けることが出来る。この制度は、文化・風土のように日本国民の間に浸透しました。修学旅行に行くときも、保険証コピーを持っていく、会社を退職した時は、国民健康保険の加入手続きをする。運転免許証を返上しても、保険証が身分証明になる。

しかし、今、貧困化が進み、医療を受けることが出来ない方の中に、保険証を持たない方が増えています。それにはさまざまな事情もあります。

マイナ保険証で受診する方もふえました。当院でも読み取りが出来ず、窓口で10割負担していただく方が発生しました。保険証廃止で、任意取得のマイナンバーカードに一本化されれば、保険証の無い方が続出する事は、火を見るよりも明らかです。誰もが金銭の心配なしに受診できるために、すくなくとも保険証廃止は、踏みとどまって考え直してほしい、そう政府に物を申していきたいと思えます。

「患者さんが主人公」～ 城北診療所の患者会活動 ～

城北診療所では「患者さんと共に」をコンセプトに、患者会活動に取り組んでいます。

患者会では、自分と同じ疾患を抱え、悩んでいる仲間と交流し、前向きに治療に取り組めることを目指しています。自分自身の疾患を学ぶ「リウマチ教室」や仲間とのつながりを大切にする糖尿病患者会「みのり会」の紹介を致します。

「ともにリウマチを知り、自分の生活スタイルに合ったリウマチライフを」

城北病院 診療所リウマチ科 登録リウマチケア看護師 金森 圭史

現在城北診療所リウマチ科では、通院の有無に関わらず、広く患者さん向けにリウマチ教室を開催しています。当院のリウマチ教室の歴史は古く、昭和51年から患者さん向けに勉強会を始め、長い歴史があります。一時はコロナ禍で中止となりましたが、今年の6月から再開しました。久々で参加者の皆さんに来て頂けるか不安もありましたが、結果沢山の方にお越し頂き、無事に開催することができました。

関節リウマチは、自己免疫の異常により、関節の腫れや痛みとともに、進行するにつれ関節変形や機能障害が起こってくる病気です。近年では、発症初期から適切な治療を開始し、進行を抑えることが重要とされています。

一方、以前は経験に頼っていたリウマチ治療が、2010年になって世界的に統一され、2015年には欧州リウマチ学会から患者教育のレコメンデーション(推奨)が提唱されました。その中には、1) 患者さんとリウマチスタッフが

共に勉強し、患者を支援する、2) 患者教育はリウマチの標準治療に欠かせない、ことが強調されています。

そういった観点からも、当院ではリウマチ専門医である村山医師が中心となって、リウマチのイロハの「イ」から各論に至るまでシリーズとして学習会を開いており、時には理学療法士や看護師、MSWなども講師となり、各分野の専門家だからこそ伝えられる内容を取り上げて幅広く行っています。また、なかなか普段の診察場面では聞けない疑問や日々の悩みなどについて、講義後にQ&Aの時間を設けています。直接リアルタイムで医師や医療スタッフに気兼ねなく質問できるこの時間は、参加される皆さんからもご好評いただいています。

リウマチ教室、興味の惹かれた方はぜひ一度ご参加くださいませ。皆さんのご参加をお待ちしております。引き続き、今後ともよろしくお願い致します。



糖尿病患者会「みのり会」

城北診療所 診療サービス課 みのり会副責任者 大川 希久子

みのり会は、糖尿病患者が安心して療養生活を送るための正しい知識を得、有意義な体験をし、豊かな医療・療養環境を追求して疾病を克服すること、また健全で希望ある日常生活を送るために交流等を通じて精神的な支援を行うことを目的に活動している患者会です。

みのり会は、1967年に結成されました。その頃は医療者の間でも食事療法について正しいものが確立されておらず、手探りで情報交換を行って支えあっていました。その後、糖尿病学会から食事療法の「食品交換表」が提示され、みのり会では職員が工夫を凝らし食事の試食会や学習会を行っています。

現在、みのり会は患者さんが自ら主体的に病気と共に

生活を送れるよう、患者で構成する役員会を中心に、様々な職種からなる職員で毎月会議を開き、年間を通じて活動しています。そのひとつに毎月開催している“おしゃべり茶ろん”があります。同じ病気を持つ患者さん同士が交流し、悩みを相談し、その時々テーマに沿って学び、情報提供をしあっています。会員だけでなく誰でも参加できるものとして、医師をはじめ、検査技師やリハビリスタッフ、栄養士などが様々なテーマで話をしています。

仕事で不規則な生活をしている方、高齢の一人暮らしの方など、様々な生活背景を持つ方がいますが、お互いに声を掛け合いアドバイスするなど、仲間を増やして明るく楽しく支えあえる会を目指しています。



金沢のまち歩き行事(金沢さんぽ)



テーマに沿った学習(おしゃべり茶ろん)



グループごとの交流(研修会)

リウマチ教室のご案内



村山 隆司 医師

毎月第一木曜日の午後14:00～15:00、城北病院の2階会議室でリウマチ教室を開催しています。誰でも参加可能で、当院への通院の有無は問いません。更には医療従事者の方も、興味のある方はぜひご参加お待ちしております。予約等は不要です。

リウマチ教室の学習会の内容は、インターネットのホームページにもバックナンバーとして全て収録されています。リウマチに関連する各種冊子やこれまでのQ&A集ダイジェストも見る事ができますので、是非訪れてみてください。

<ホームページURL> <http://jouhoku-rheumatism.com>

過去の講義内容

スタッフの講義

腰痛の対処

医師の講義

リウマチと診断されたら最初に投与する治療薬、メトトレキサートを中心に

これだけは知ってほしいリウマチ治療

リウマチ患者さんの医療費

リウマチ患者の感染対策

関節リウマチと骨粗鬆症

関節リウマチと腎機能

関節リウマチ患者さんの足趾・前足部痛への対処方法

リウマチの歴史を振り返る

世界共通のリウマチ医療の進め方

